

# 04 令和4年度 林業成長産業化地域成果報告会



## 林業成長産業化地域 成果報告会 について

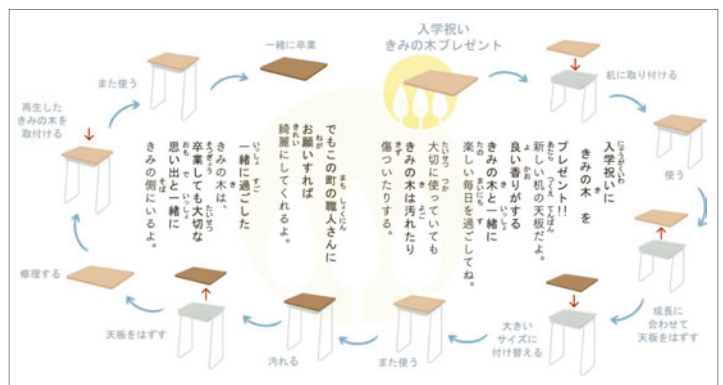
林野庁では、平成29年度から30年度にかけて、川上から川下までの関係者が連携して地域の活性化に取り組む「林業成長産業化地域」を選定し、その創意工夫による取組を5年間にわたり林業成長産業化地域創出モデル事業（以下、モデル事業）により優先的に支援してきました。また、それらの取組の横展開を図るため、毎年成果報告会を開催してきました。

令和4年度はモデル事業の最終年となることから、事業の総括も含めた、「令和4年度林業成長産業化地域成果報告会」を1月31日にオンライン併用で開催し、優良事例の発表、パネルディスカッションなどを行いました。

成果報告会では、筑波大学の立花敏氏から基調講演をいただき、林業をとりまく状況の変化や政策の動き、今後への期待などについてお話をいただきました。また林野庁からは、事業を総括し5年間の成果として、川上から川下までの各段階で優良な事例が得られるとともに、全体として見ると、素材生産や再造林、林業就業者等の定量的な数値も増加していることを報告しました。

優良事例として、山形県最上・金山地域の狩谷健一氏（金山町森林組合）からICT林業による林業経営や省力化について、鳥取県日南町・中央中国山地地域の荒金太郎氏（日南町役場）から林業アカデミーによる人材育成等の取組、大分県日田市地域の綾垣早人氏（日田市役所）から大径材の需要促進や製品の高付加価値化の取組等について発表していただきました。

パネルディスカッションでは、森林総合研究所東北支所の御田成顕氏がコーディネーターを務め、優良事例報告を行った3地域に、秋田県の千葉泰生氏（大館市役所）と宮城県竹中雅治氏（登米町森林組合）の2名を加え、地域の体制作りや合意形成における苦労や工夫、取組の成功要因や困難だった点等について議論を深めました。特に合意形成については、大枠で合意を得た上で、事業を進める中で選択と集中を図り方向性を定めていく方法や、できる者で先行的に取組を実施し、良好な結果を示すことにより合意を図る方法などについて情報共有が行われるとともに、地域が一体となって課題に取り組むことの重要性が確認されました。



日田市地域では学校机「きみの木」を開発、市内小中学校へ導入

なお、モデル事業で得られた成果については、下記ホームページで成果報告書や事例集を公開しています。

林野庁HP ▶ <https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/kouzoukaizen/koufukin.html>